

福島農業

No. 553

題字 福島県知事 佐藤雄平



9

2010

かんしゅう■福島県農林水産部
表紙の写真■なめこ育成



就任のごあいさつ

福島森林管理署長 中山 浩 次

去る七月三〇日付けをもって福島森林管理署長を拝命いたしました。月刊「林業福島」の読者の皆様誌上をお借りしましてご挨拶申し上げます。皆様には日頃より国有林野事業の推進につきまして、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

福島森林管理署は、阿武隈川流域内の国有林野約九二、〇〇〇haのうち、福島市など流域の中下流域の九市町村にまたがる約五八、〇〇〇haを管理しています。当署管内は東部には丘陵性をなした阿武隈山地が南北に連なっており、西部には垂高山帯の安達太良・吾妻山系が南北に走り起伏に富む山岳を形成しています。管内国有林の人工林率は五四割で人工林は主に阿武隈山地に分布しています。また、安達太良・吾妻山系は、天然林が主体であり、ほぼ全域を「緑の回廊」の区域に設定し、野生動植物の生息・生育地を結ぶ経路を確保することにより種の保全や遺伝的な多様性の確保を図っています。

当署では、開かれた「国民の森林」の実現に向け、重点目標として、森林の公益的機能の維持増進、森林施業の低コスト化の推進と林産物の安定的供給、国有林・国有林が連携した森林整備の推進、国民へのPR及び情報の提供並びに地域社会への寄与、国有林野の適切な管理、労働災害の未然防止の六点を掲げて取り組んでいます。

林野庁では、昨年一二月に策定された「森林・林業再生プラン」に基づき、一〇年後の木材需給率五〇割以上を目指して森林・林業施策の抜本的検討が進められています。当署におきましても、造林コスト低減と林業労働の労働強度の軽減へ向けた取組としてコンテナ苗を用いた低コスト造林、国有林と民有林が一体となって路網整備や間伐等の森林整備を効果的に推進するための団地化へ向けた取組、林地残材についてシステム販売による新規需要開拓と需要者への安定供給に向けた森林資源の有効活用を図る取組等を推進しています。

国内の人工林資源も成熟期を迎え、その利用拡大を軸として民有林と国有林が連携を図り、森林・林業・木材産業の活性化を図っていくことが今後一層重要になると考えており、当署としても積極的に取り組んでまいりますので、今後とも皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

最後に、皆様の益々のご発展とご健勝を祈念申し上げて就任のあいさつといたします。

《も く じ》

とびら

就任のごあいさつ

福島森林管理署長 中山 浩 次 … 1

東北・北海道ブロック林業グループコンクール開催 … 2

高性能林業機械の活用事例

高性能林業機械を活用した新しい施業システム 3～4

林業研究センターだより

只今、こんな花粉症対策にも取り組んでいます 5～6

森林文化シリーズ

ブナと只見町…………… 7

普及指導員通信…………… 8

福島県林業祭のご案内…………… 9

木材市況・ふくしま東西南北…………… 10

森連だより…………… 11

林協ニュース…………… 12

はなしのひろば…………… 13

東北・北海道ブロック林業グループコンクール開催

福島県林研グループ連絡協議会

東北・北海道ブロック平成二二年
度林業グループコンクール及び第五
〇回林業グループ交歓会が、九月二
日～三日、宮城県栗駒市のハイル
ザーム栗駒にて開催されました。

宮城県・宮城県林業研究会連絡協
議会・全国林業研究グループ連絡協
議会の主催により行われ、東北・北
海道の林業研究グループ員約一二〇
名が参加しました。

はじめに、主催者の全国林業研究
グループ連絡協議会常任理事齋藤正
氏、宮城県林業技術総合センター所



活動発表をする緑川氏

長鈴木登氏より挨拶があり、林野庁
研究・保全課普及教育班後継者養成
係長加賀美昌克氏より祝辞が述べら
れ、コンクールに入りました。

本県からは長年意欲的な活動をし
ている田人林業研究会の方々六名が
参加しました。緑川平隆氏により
「田人林研の森林づくり」と題して
発表された内容は、昨今の経済悪化
による木材価格の低迷、林業経営者
の高齢化などの暗い話題を吹き飛ば
すような、地元のスギを使ったクリ
スマスタイルミネーションや門松の設



表彰の様

置（今年で一五年目）という明るい
話題や、地元産の特産品を都心部で
販売する積極的な交流、子供達が木
と触れ合い、森林への関心を持った
めの体験学習の普及活動、そして第
三期を迎え見えてきた今後の「環境
づくり」「人づくり」についてでした。

甲乙つけがたい大変レベルの高い
各道県代表グループの発表が終了
し、来年の三月に行われる全国大会
に出場する第一位に選ばれたのは、
宮城県代表の南三陸町山の会です。
田人林業研究会は全国林業研究



現地視察

グループ連絡協議会会長賞を受賞し
ました。

南三陸町山の会は、強度試験、成
長調査、長期大径材の供給可能林分
析調査等を行い、改めて南三陸産材
の価値を実証しました。その優れた
木材を更に知ってもらうため地元製
材所、工務店、建築設計士と連携し
て森林見学会及び製材所見学会開催
といったPR活動を行い、今後も高
品質を維持し付加価値を高めるため
展開していくという内容でした。

そして、東北大学大学院農学研究
科教授清和研二氏により「森林の種
多様性の回復と林業の振興」、栗駒
耕英地区行政区長金澤大樹氏により
「栗駒市栗駒耕英地区の震災復興」
と題して講演が行われました。

その後に行われた交歓会では、各
道県盛んな意見の交換が行われまし
た。互いの取り組みに関心を持ち合
い、将来への更なる展望が熱く語ら
れ、有意義な時間となりました。

翌、三日は二年前に発生した「岩
手・宮城内陸地震」により多大な被
害を受けた栗駒耕英地区等の現地視
察研修会が行われました。宮城県北
部地方振興事務所栗原地域事務所原
央晶技術主査、東北森林管理局宮城
北部森林管理署宮城山地災害復旧対
策室江坂文寿室長により、現在の復
興状況等を説明いただき、今なお傷
跡の残る各現場を視察しました。

◇事例1：磐城林業協同組合

～コンテナを使用したバイオマス用材の一体的生産～

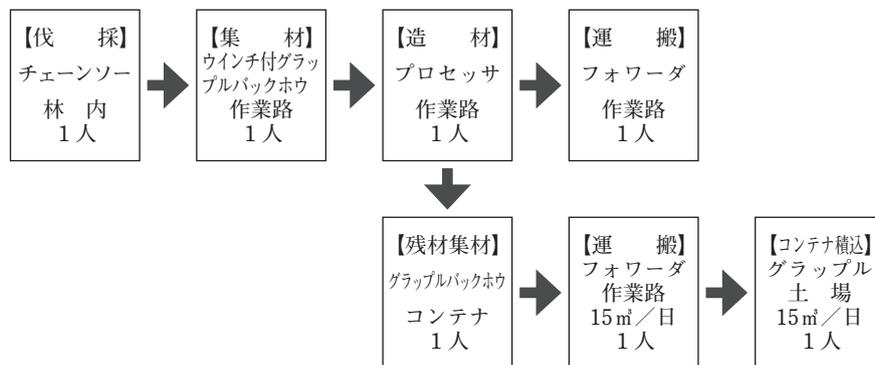


コンテナへのC材・D材の積み込み



トラックへのコンテナ積み込み

- ①年間素材生産量 37,700m³
- ②作業員数 40名（5名×8セット）
- ③システムの特徴
林地残材（C材、D材）の有効活用と集積・運搬の効率化を図るため、林地残材をコンテナ（3～3.5m³）に入れ、フォワーダで土場まで運ぶ。土場ではコンテナごとチップ業者がトラックで工場まで運搬する。
- ④高性能林業機械等の保有台数
プロセッサ8台、フォワーダ12台、グラップル24台
- ⑤作業路の作設
作業路密度は200m/ha程度、幅員は3.6mで水切りを敵宣設置する。単価は800円/mを目標に作設する。
- ⑥作業システム



⑦労働生産性

区分	新たな作業システム		従来作業システム		
	労働生産性 (m ³ /人・日)	素材生産コスト (円/m ³)	労働生産性 (m ³ /人・日)	素材生産コスト (円/m ³)	導入機械 (システム)
皆伐	8.0～10.0	5,400	3.0	7,000	トラクタ集材 チェーンソー造材
間伐	5.0～8.0	6,400	1.0～2.0	9,000	トラクタ集材 チェーンソー造材

高性能林業機械の活用事例
高性能林業機械を活用した新しい施業システム

◇はじめに

福島県における高性能林業機械の導入台数は、平成二〇年度で一

■林業振興課 人材育成担当

一九台と なっています。平成二二年からは、今後実施される素材生産と森林整備を計画的に推進するため、高性能林業機械のリース事業を

(社)福島県林業協会を実施主体に行っています。

機械化のメリットは、伐採・搬出コストの削減、労働負荷の軽減や労働災害の減少にあります。若い就業者が機械のオペレーターとして活躍する場が増えることにより、新規就業者の増加に繋がることが期待され

ます。

高性能林業機械の導入に当たっては、より有効に活用するための施業システムづくりが重要です。今回、県内における機械化の優良事例として、磐城林業協同組合と安田林業株式会社を紹介いたしますので、機械化推進の参考にしてください。

◇事例2：安田林業株式会社

～ハーベスタを活用した効率的な列状間伐～

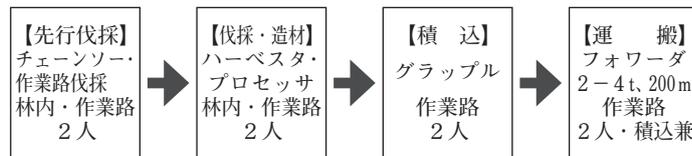


プロセッサによる造材作業



フォワーダへの積み込み

- ①年間素材生産量 6,930 m³
- ②作業員数 6名（6名×1セット）
- ③システムの特徴
 素材生産に当たっては、伐木、造材、集材の各作業工程のバランスを考慮した作業計画や機械の配置を工夫することにより機械の稼働率を高めている。
 また、列状間伐の区域を作業路として、ハーベスタとプロセッサ等による生産性の向上を図った。
- ④高性能林業機械等の保有台数
 ハーベスタ1台、プロセッサ1台、フォワーダ2台、グラブプル3台
- ⑤作業路の作設
 等高線に沿った線形として、切土・盛土を極力抑えて縦断勾配が急にならないように工夫している。
 列状間伐区域を作業路と見立て作業道と合わせて500～650m/ha程度となるように作設している。
 作業路は標準幅員3m、緩傾斜地では作設単価200～400円/m程度である。
- ⑥作業システム



⑦労働生産性

区分	新たな作業システム		従来の作業システム		
	労働生産性 (m ³ /人・日)	素材生産コスト (円/m ³)	労働生産性 (m ³ /人・日)	素材生産コスト (円/m ³)	導入機械 (システム)
間伐 (列状)	5.3	5,300	3.0	9,400	集材機集材 チェーンソー造材

◇まとめ

二事例とも、素材の有効利用と高性能林業機械の稼働率を上げる工夫が要所に見られます。

また、緑の雇用担い手対策による新規就業者の確保・育成や基幹林業労働者研修等に積極的に参加

させるなど、作業技術の向上とともに、資格取得に積極的に努めています。
 さらに、緊急時の無線装置、安全装備や作業員への安全衛生指導を社長自ら行うなど、積極的に取り組まれています。

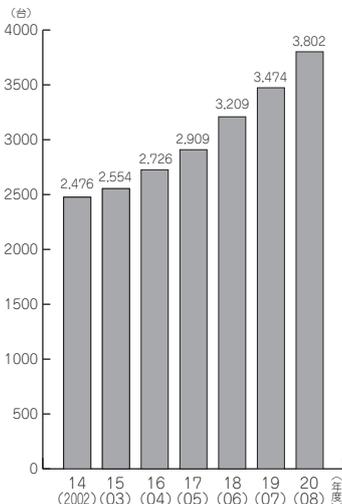
1. 素材生産の生産性・生産費 (全国)

(単位: m³/人日, 円/m³)

	生産性	生産費
主伐 (全体平均)	4.00	6,342
高性能林業機械を用いたもの	5.26	5,162
間伐 (全体平均)	3.45	9,333
高性能林業機械を用いたもの	4.35	9,144

資料：平成22年版森林・林業白書

2. 高性能林業機械の保有台数 (全国)



資料：平成22年版森林・林業白書

毎年春先、スギ花粉症に悩まされている方はたくさんいらっしゃるかと思います。幸いなことに私はまだ花粉症には罹っていないため、という訳ではありませんが、「スギ雄性不稔個体の育種と早期育成法の開発」という研究課題を担当しています。

現在は、県内で発見した無花粉スギや富山県の無花粉スギ（正しくは「雌性不稔スギと呼ぶ」と県内精英樹（成長等が優れた個体）の交配をして、新たな無花粉スギを作り出しているところですが、供給までにはもうしばらくかかります。

はじめに

林業研究センターだより

只今、こんな花粉症対策にも取り組んでいます




写真1 黒褐色の雄花 写真2 雄花内部

県林業研究センター森林環境部

壽田智久

スギ黒点病菌の発見

二〇〇六年に私の前任者と新潟大学の平教授が、無花粉スギの探索を行っている際、西会津町内のスギ人工林において、偶然、黒褐色に変色した雄花を多数着生させたスギを発見しました。その雄花を調べると、黒褐色の菌糸のような物で全体が覆われており、花粉を飛ばしていないことが分かりました（後に、同じスギ人工林内のあちこちにも、他のスギ人工林においても同じ様な症状を呈するスギがあることが分かりました。）（写真一・二）。

いつスギ黒点病菌は雄花に感染するのか？

早速、この黒褐色に変色した雄花を（独）森林総合研究所の森林微生物研究領域の窪野高徳先生にお送りし、菌の同定をしていただいた結果、「スギ黒点病菌」と判明しました。

スギ黒点病菌の人為的感染に成功

二〇〇七年に前述の窪野先生と共に、スギ黒点病菌の感染雄花を発見したスギ人工林（西会津試験地）において、暴露試験を行って、いつ頃に自然状態では感染が起るのかを調べました（写真三）。

スギ黒点病菌は雄花に感染するのか？

スギ黒点病菌に感染し黒褐色に変色した雄花が、花粉を飛散させていないことに着目して、既存のスギ林における花粉飛散抑制への利用について検討することとなりました。

スギ黒点病菌の人為的感染に成功

二〇〇七年には暴露試験と並行して、実際にスギ雄花に人工的にスギ黒点病菌を接種して人為的感染を引き起こせるのかを確認するため、人工接種試験を実施しました。



写真3 暴露試験の様子



写真4 付着法による人工接種の様子

細かく碎き、培地ごとスギ雄花穂に付着させて絶縁テープで覆うという方法（付着法）により、スギ黒点病菌の人工接種を行いました（写真四）。その結果、人工接種を行った雄花穂の内、四五割の雄花穂を枯死させることに成功し、枯死した雄花からはスギ黒点病菌が再分離されました。このことから、スギ黒点病菌の人工接種による人為的な感染の誘発が可能であることと、スギ黒点病菌の病原性（スギ雄花を枯死に至らしめること）が確認できました。

■実用化に向けて

二〇〇八年以降は、付着法ではなく、将来の実用化を視野に入れ、米ぬか・ふすま培地培養菌糸体懸濁液



写真5 散布法による人工接種の様子

に保湿のための大豆油等を混ぜた粘度の高い液体をスギ雄花穂に散布する方法（散布法）で、人工接種試験を実施しています（写真五）。例えば、スギの品種によってスギ黒点病菌の人工接種による感染率が異なるかどうかを調べた試験では、当センター内のビニールハウスで育苗した三年生のスギ精英樹挿し木苗三クローン（石城二号、田村二号、西白河三号）を各クローン一〇個体ずつ供試して、散布法による人工接種を一回接種と二回接種に分けて実施しました。

その結果、平均雄花枯死率は一回接種で五八・五割、二回接種で六四・九割となり、接種回数別の雄花枯死率に有意差は認められませんでした

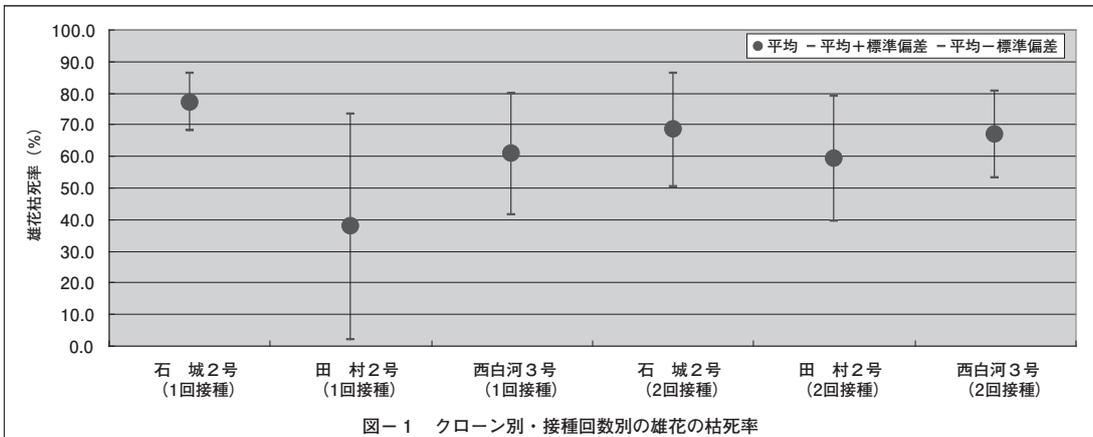


図-1 クローン別・接種回数別の雄花の枯死率

が、六割前後の雄花を枯死させることが出来ました。

クローン別の平均雄花枯死率を見ると、一回接種では石城二号が七七・

一割、田村二号が三七・七割、西白河三号が六〇・七割となっており、二回接種ではそれぞれ六八・四割、五九・三割、六七・〇割と、一回接種・二回接種とも石城二号が最も高く、田村二号が最も低くなっています。

統計解析の結果でも、クローン間には五割水準で有意差が認められ、スギ黒点病菌による雄花枯死率がクローン（品種）によって異なることが分かりました（図一）。

同時期における雄花あるいは花粉の形態の違い等、クローンによる何らかの相違が雄花枯死率に影響を及ぼしたことが示唆されました。

■おわりに

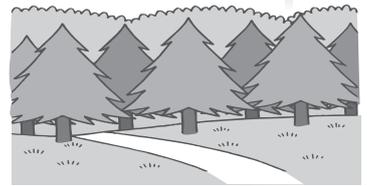
今年度から平成二四年度までの実施計画で、国の「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」に本県も参画し、スギ黒点病菌を利用した実用的な花粉飛散防止技術の開発に取り組み始めました。

何とか、この技術を確立してスギ花粉症対策の一手段と出来るよう、着実に研究を推進したいと思えます。

ブナと只見町

只見の自然に学ぶ会代表
只見町ブナセンター主任指導員

新 国 勇



只見町ブナセンターが発足
ブナと川のミュージアムも開館

●只見町ブナセンターの発足
今年四月、只見町ブナセンターが発足した。これまでの川のものしり館を「ブナと川のミュージアム」としてリニューアルしブナセンター事務局をおいたのである。専従の職員を新たに三人採用し、町の期待をになう看板施設としてスタートをきった。これは人口五、〇〇〇人の小さな町の大きな決断だった。ここにいたるまでには、さまざまなできごとがあった。「ブナと生

きるまち・只見」を標榜することになったいきさつを振り返り、町の現状と理念を紹介したい。

●ブナ林の保護運動

高度経済成長まっさかりの昭和四〇年代、日本中のブナ林は、伐採の嵐にさらされていた。拡大造林政策により、ブナなどの広葉樹が皆伐されスギ・ヒノキの人工林に代わっていった。只見町においても同様だった。布沢地区には広大なブナ天然林が残っていたが、年々、山が裸になっていった。地元住民は、洪水被害や土砂くずれを心配していた。四四年八月一二日、それが現実となる。一週間降り続いた雨が保水力の限界を超え布沢川にあふれ出し、未曾有の洪水被害をもたらしたのである。土砂崩れにより人家や耕地がうばわれ、五つの集落が移転を余儀なくされた。

これを機に、町内では議会や行政区が中心となってブナ天然林の保護運動が高まっていった。四八年、町議会は国有林野保全に関する要望を前橋営林局に申し入れた。五五年には、国有林

問題特別委員会が設置され、ブナ林伐採の調査や検討が行われる。これらの運動は、平成の時代になっても続き、保全に関する決議や署名運動が展開されるが、伐採がなくなることはなかった。しかし、平成一四年から状況が変化す。国有林野伐採計画に対して、日本野鳥の会などの自然保護団体が国有林野の保全を申し入れたことに端を発して全国的に保護のうねりが広がった。一五年には、布沢恵みの森が郷土の森に指定され、一九年四月からは只見町を中心とする奥会津一帯の山地が奥会津森林生態系保護地域となり、国内最大の保護林として保全されるようになったのである。

●ブナ林総合学術調査の実施

只見町は、昭和五四年、ブナを町の木に指定している。これはイメージシンボルであり、他と差別化できるものではなかった。そこで、平成一五年から一七年の三カ年間に、ブナ林総合学術



平成19年「自然首都・只見」を宣言

調査が実施された。これによって、この地域のブナ林の遺伝子の多様性が非常に高いことが判明した。また、絶滅危惧種クロホオヒゲコウモリの国内一の生息地であることも明らかにされた。

これらの事実は、只見地域のブナ林が分断されずに広域に残った証しである。さらに、溪流域までブナ林が侵入し、トチノキやサワグルミなどと一緒にもみごとな溪畔林をつくっており、河畔林では絶滅危惧種ユビソヤナギが生していることも特色とされた。

●「自然首都・只見」宣言

只見町ではブナ天然林の価値を国内外に知ってもらうため、平成一七年七月、世界ブナ・サミットを開催した。六カ国から研究者が集まり、世界のブナ林の現状について討議した。ブナ林の現地視察も行われ、価値の高い森林であるとの評価を得た。一九年七月、子どもブナ・サミットを開催し、自然の中心地は只見というメッセージを込めて「自然首都・只見」を宣言した。翌二〇年には、第二回世界ブナ・サミットを開催し、その評価を不動のものとした。

いま、町では「自然首都・只見」をキャッチフレーズにして、ブランドの向上と交流人口の拡大を図ろうとしている。このような一連の活動のもとに只見町ブナセンターが生まれたのである。むかしから当たり前につきあっていたブナ林が、町民の誇りとなった今、自然首都が名実ともに実現しようとしている。

— 普及指導員通信 —

～間伐材搬出作業システムの推進～

■南会津農林事務所

これまで、間伐の推進に重点が置かれ森林整備が進められてきましたが、これからは間伐材の搬出を行わなければ森林整備が図れない時代になってきました。当管内における間伐材搬出の実績は非常に低く、間伐材の搬出をいかに進めていくかが課題となっています。

当管内では、「提案型集約化施策」を進める観点から、昨年度から「森林土木セミナー」を実施し、作業道開設オペレーター研修、高性能林業機械オペレーター養成研修などの実施計画を立て、「低コストで山を痛めない作業路開設」「間伐の推進と間伐材の利用促進」に積極的に取り組んできました。今回は、今年度実施した研修について紹介します。

これらの研修には、四万十式作業道を推進している田邊由喜男氏（森杜産業株式会社代表取締役）を講師に招き、指導していただきました。

まず、間伐材の搬出を推進するためには、作業路網を整備することが必要です。作業道の開設にあたっては、山を荒らさずに恒久的な利用が可能であること、木材価格の低迷から低コストで開設が可能であることが重要で

す。このことから、5月18日から5月21日にかけて、「低コスト」「自然災害に強い」「山を痛めない」作業道として全国で注目を集めている「四万十式作業道」開設の研修を行いました。

さらに、8月26日から8月27日には、この開設した作業道を利用し、「四万十式作業道」と林業機械を組合せた集材、玉切、搬出等の作業システムの実践的な技術を研修しました。森林・林業再生プランでは、間伐材の搬出システムとしてプロセッサ、フォワーダ、スイングヤード等いわゆる高性能林業機械によるシステムが主流です。今回研修した作業システムは、当管内における利用間伐の実績及び南会津地方の地形等を考慮し、ウィンチ付グラップルと林内作業車を組合せたシンプルなシステムで行いました。

今後は、今回研修した「低コストで山を痛めない作業道」により森林所有者の作業道に対する認知度を高めながら、南会津地方に適合した間伐材搬出システムをさらに検討し、利用間伐を推進していきたいと思えます。

（林業普及指導員 柳田 範久）



四万十式作業道開設研修



間伐材搬出作業システム研修

暗中模索の集約化推進

■相双農林事務所
富岡林業指導所

今現在の林業指導所は1に集約化推進、2に集約化推進の世界となっており、更に年度後半に向かい、町村、森林組合への実施計画の策定指導を求められています。

集約化実施計画は従来の森林施策計画に代わるものとされ、平成22年度は森林整備加速化事業が、平成23年度からは、加速化事業は引き続き、造林補助事業は算出手法において採用され、平成24年度からは森林整備事業関係は完全に移行するとの情報となっています。従って、完全なマニュアルが示される前の推定も混ざった事前普及指導活動となっています。

過去4ヶ月近く、毎朝、事務所内においては、森林組合職員と実施計画の様式から入るのか、長期受委託契約書の締結を優先させるのか、はたまた図上の団地の仮想特定を優先させるべきか、この計画策定のプランナーの役割はどこで、なにを行うのか、

と言った議論が、1時間以上あります。様式については、県外の先進森林組合の様式を送ってもらって勉強している最中でもあります。

しかしながら、個別議論だけでは先に進まないと言うことで、町村、森林組合の担当職員は理解度においては横一線にしたいとの願いもあり、打合会や勉強会を開催していますが、現実の進捗度合いについては、町村間にばらつきが生じてもしかたないのかなと推察している次第です。

今後の進め方として、森林組合職員が町村割に貼り付き、長期受委託契約の締結や説明会を計画し、これを普及指導員が応援する形で、実施計画を作成して行きたいと思っており、森林組合職員、町村職員、そして森林所有者のスムーズな連携と普及指導員のコーディネートが試されます。

（林業普及指導員 大田原和美）



集約化推進勉強会



勉強会の様子

第35回 もり 森林と林業の魅力!大満喫!

福島県 林業祭

10.23 土 ▶ 10.24 日
9:30~16:00 9:00~15:30

どころ
福島県林業研究センター
(郡山市安積町成田字西島坂1番地)

同時開催
福島県きのこまつり

楽しいイベントが盛りだくさんです。
ご家族お揃いでお越し下さい。

- 林業研究センターの公開 ●チェンソーアートショー
- 緑の基金コーナー ●国産材・資材PRコーナー
- 環境保生活動PRコーナー
- 木工工作・木材利用コーナー ●製作・体験コーナー
- 県産きのこPRコーナー ●グリーンアドバイザー
- 林業機械展示販売・実演 ●緑化木・林産物展示販売
- 森林関連産品の販売 ●福島県チェンソー選手権(10/23) など

このイベントは「緑と木の森林基金」(緑の基金事業)の協力を受けています。

関連行事

林業コンクール表彰式
日時：平成22年10月23日(土) 10時30分~12時00分
場所：本庁ホールバーデン

福島県森林林業振興大会
日時：平成22年10月23日(土) 13時30分~(昼村12時30分~)
場所：ビッグパレットふくしま
ふるさと森林相談会
日時場所：福島県林業振興局

主催/福島県林業振興実行委員会
協賛/(財)福島県林家会館

●お問い合わせ先 福島県 林業振興課 TEL.024-521-7426
●詳しくは林業振興課のHPをご覧ください。

福島県林業祭のづくり案内

10月23日、24日の二日間、郡山市の県林業研究センターで、福島県林業祭が開かれます。

皆様、お誘い合わせて、ぜひご来場ください。

●お問い合わせ
福島県林業振興課
TEL 024-521-7426

詳しくは
ホームページを
ご覧ください。

きのこで地域を元気に (財)福島県きのこ振興センター

●菌床栽培用ナメコ(登録品種)

福島N1号

安定多収量

福島N2号

大型・滑り少

●原木栽培用ナメコ(登録品種)

福島N3号

福島N4号

コナラ原木で安定・多収量
食物繊維、ペクチン様物質豊富

○その他各種種菌

○菌床 ●シイタケ
●ハタケシメジ
●ムラサキシメジ等

○マイタケホダ木 ○栽培資材

〒963-0112 郡山市安積町成田字西島坂7-2 Tel 024-947-2188 Fax 024-947-6926
E-mail:f-kinoko@mtj.biglobe.ne.jp URL:http://www.f-kinoko.org

木材市況

素材の価格〈工場着価格〉(7月15日現在)

(単位: m³当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	8(8~8)	0	9(9~9)	0	7(5~9)	0	8(5~9)	0
		10~13		並	スギ	11(9~12)	0	9(8~9)	0	9(8~11)	0	9(8~12)	0
	中	14~18	3.00	並	スギ	13(11~14)	0	11(11~12)	0	12(11~13)	1	12(11~14)	0
				並	ヒノキ	19(17~21)	0	(~)	-	18(15~21)	1	18(15~21)	0
		6.00	並	スギ	18(16~20)	0	18(18~18)	0	16(15~16)	1	17(15~20)	0	
			並	ヒノキ	24(24~24)	0	(~)	-	24(21~27)	0	24(21~27)	0	
	20~28	3.65	並	スギ	14(12~18)	0	12(11~12)	0	12(12~13)	1	13(11~18)	0	
		4.00	並	アカマツ	11(8~12)	0	10(10~10)	0	11(10~12)	0	11(8~12)	0	
		1.80	並	アカマツ	7(5~9)	0	(~)	-	8(7~9)	0	8(5~9)	0	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	21(21~21)	0	(~)	-	24(24~25)	0	23(21~25)	0
並				米マツ	26(23~28)	1	26(26~26)	0	26(25~27)	0	26(23~28)	0	
28以下		4.00	並	エゾマツ	(~)	-	(~)	-	23(20~25)	0	23(20~25)	0	
			並	ベニマツ	27(27~27)	0	22(22~22)	0	21(21~21)	0	23(21~27)	0	
南洋材		70~90	8~14	並	ラワン	(~)	-	(~)	-	(~)	-	(~)	-
				並	アガチス	(~)	-	(~)	-	(~)	-	(~)	-
パルプ用材	-	-	並	マツ	(~)	-	(~)	-	5(5~5)	△1	5(5~5)	△1	
			並	広葉樹	(~)	-	(~)	-	6(6~6)	0	6(6~6)	0	

六月の原木市場への入荷状況は、前月比二三割増(前年比36割増)の二六、三〇二立方メートルとなっている。販売量については、前月比では二二割増(前年比二九割増)の二五、八〇一立方メートルとなっている。入荷量、販売量ともに、前月比、前年比で増加している。七月の価格については、保合である。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(7~8)	*	9(8~9)	0
	13~14		並	カラマツ	(7~8)	*	8(7~9)	0
	16以上		並	カラマツ	(0~0)	*	11(10~11)	0

注) 1. 前月差の△印は値下りを、*印は前月実績がなかったことを示す。
2. ()内は各地域の価格幅、()外は各地域の平均価格を示す。
3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。



楽しいパークゴルフ

「パークゴルフ」ってご存じですか? パークゴルフは、その名前の通り公園をコースにしたゴルフで、昭和五八年に北海道で誕生したスポーツです。ゴルフのプレーが基本になっていて、クラブで直径六センチ、重さ九〇グラム前後のボールを打ち、どれだけ少ない打球でカップにボールを入れられるかを競うスポーツです。ルールも簡単で、歩きやすい芝生のコースで、プレー料金も五〇〇円程度とゴルフよりも格別に安く、子供からお年寄りまで手軽に楽しめる。近年人気急上昇中です。県内にはIPGA(国際パークゴルフ協会)公認のパークゴルフ場は八箇所あり、浜通り地方では五つ、



やってみませんか。パークゴルフ

相双農林事務所森林林業部 林業課長

大久保 圭 二

全てが相双地方です。その中でも、注目は、松川浦にも近い「相馬光陽パークゴルフ場」です。ここは、平成一九年に東京ドームの一・七倍の面積に六コース五四ホールと東日本最大級のパークゴルフ場としてオープンし、開園以来多くの人に楽しまれてきました。大会もスポーツメーカーが主催するものから地元団体等が主催するものまで、その数は年間三〇回を越えています。利用客は、年間六〇〇〇人近くおり、隣接する宮城県のほか千葉県、埼玉県など関東地方からのプレイヤーもいて、交流人口の拡大に大きく貢献しています。現在も、コース拡張工事が行われており、来年四月には九コース八一ホールの日本でも有数の規模になるほか、今年度には森林整備加速化・林業再生基金事業を活用して、パークゴルフ場内に木材を使った休憩棟を建設する計画です。みなさんも、のんびりと浜風にあたりながら、プレーしてはいかがですか? もちろんレンタルもありますので手ぶらでOK、帰りは新鮮なお魚をおみやげにどうぞ。

森連だより

森林施業プランナー 育成研修の開催



開講式の様子



林況調査の実習



低コスト作業システムの検証

森林資源の充実化を踏まえ、木材利用の積極的な推進による地球温暖化防止、循環型社会の構築に寄与するため、集約化施業により効果的な施業への転換と、利用間伐の推進に取り組みることが、森林組合の重要な役割です。

このためには、森林所有者の施業意欲を引き出す提案型施業集約化にランナーを育成するとともに、組合

全体で業務をサポートする態勢を整えることが大切です。

また、計画的に業務を推進するためには、各組合の管轄する区域全体の調査を踏まえた集約化区域の適地を選定するとともに、利用間伐の収支データを整理し、森林施業プラン書の精度を上げ、森林所有者の信頼と経営改善に繋げることも重要です。

現在、林野庁の森林施業プラン



	月日	教科	研修内容
第1回	6月28日	開講式 オリエンテーション	研修の仕組み、研修の進め方、日程等
		間伐に向けた森林資源調査	林況調査 森林蓄積調査・林分生長量の測定と生産力の見積
	6月29日	目標林型を目指した選木と間伐	目標林型をイメージした選木実習 定性間伐・定量間伐（列状間伐）
		団地化の意義と手順	なぜ団地化するのか、団地化の進め方・手順
第2回	7月8日	提案型施業集約化の目的と意義	提案型施業集約化の意義、先進事例から学ぶ提案型集約化施業、所有境界の確認
		林業相談会	集落座談会の進め方
		作業システム選択の考え方	作業システムの基本、傾斜に応じた作業システム 路網と作業システム、間伐方式と機械の組み合わせ
	7月9日	間伐の伐出システム	伐倒、搬出作業の基礎、伐出システム-車両系、伐出システム-架線系
		低コスト作業システムの検証	先進事例に見る低コスト作業システムの検証
		作業道・路の計画と手順	作業道とは、道の計画、路網計画に当たって留意すること、路網計画の手順
第3回	7月9日	現地踏査、施工のポイント	現地踏査の手順、伐開幅、丸太組 構造物、ヘアピンカーブ
		森林施業プランの作成	間伐コストの構造、機械の減価償却費と原価計算の方法
	7月22日	間伐コストの見積目安	間伐材生産事例に伐出原価計算、算出演算
		森林評価について	現地踏査 積算の仕方
7月23日	森林評価について	計算方法について	
	現場の把握と工程表	現場の把握と工程表	
	コスト管理に向けた伐出作業記録の仕方	利用間伐等の伐出作業記録の手順、書式記入例	
		閉講式	

ナー育成（基礎）研修受講者は、福島県内一〇森林組合で一四名となっていますが、業務の円滑化には複数のプランナーを配置する必要があります。また、まだまだ人数が不足しています。

一方、同研修は平成二十一年度で終了していることから、現在本会で実施している「ふるさと雇用再生特別基金事業」の新規雇用者を対象とした研修の場を活用し、森林施業プランナー育成研修を企画しました。

集約化施業に先進的に取り組んでいる田村森林組合のご協力のもと、別表のとおり三回に分けて開催しましたが、県内の森林組合にお声掛けをしたところ、一八組合、三四名の職員に参加を得られ、関心の高さが伺えました。参加者からは、書物では

得られない情報を得ることができ、理解が深まったと意見が出されるなど、概ね好評でした。

今後は、研修受講者への実践上のサポートを通し、集約化施業の推進に繋げていくとともに、さらに研修の機会を設けプランナーの増員を図っていきたく考えています。

また、京都府日吉町森林組合で開催されたステップアップ研修受講組合である田村、いわき市（平子商店との連携）、双葉地方、福島県北、ふくしま中央、東白川郡の各森林組合の成果を共有する場を設け、集約化施業を加速化させていきたいと考えています。

林協ニュース

ふるさと林道緊急整備
事業等研修会を開催



熱心に受講する参加者

平成二二年度ふるさと林道緊急整備事業等研修会は、八月三十一日、林業研究センター研修本館で開催された。研修会には、市町村及び県の林道担当者など四四名が参加した。午前一〇時三〇分に開会后、まず、



現場で説明を受ける

県ふるさと林道推進協議会長(代理)湯田俊一林業協会参事兼業務部長)があいさつし、ついで、水戸典明県林道整備課長からあいさつをいただいた。このあと、県林道整備課藤井徹也主査により、「林道施設災害復旧事



業について」の講義があった。林道施設災害発生時の対応や林道施設災害復旧事業の実施にあたっての留意事項などについて説明された。

午後からは、国土環境緑化協会の谷口伸二本部技術委員長により、「林道の法面緑化工について」の講義があった。

緑化工の基礎、法面緑化施工地の獣害対策、緑化工用植物の外來種問題、道路土工指針の改定内容と新たな植生工、これからの緑化工計画と設計のあり方とさまざまな面から話をされた。

続いて、簡易吹付法砕削協会の星澤保弘技術委員長から、「林道の法面緑化工について」の講義で簡易吹付法砕削の工法などの説明を受けた後、林業研究センター敷地内の平成四年に簡易吹付法砕削が実施された現場に移動して研修を行った。

参加者は、一七〜一八年経過し、すっかり緑化されている法面を見ながら、検討したり質問をしたりしていた。

最後に、研修館で閉会のあいさつの後解散した。

■第四三回東北・北海道地区林業改良普及協議会開催

第四三回東北・北海道地区林業改良普及協議会は、九月九日、福島市ホテルグリーンパレス福島で開催された。これは、東北・北海道の各道県持ち回りで開かれているもので、各道県の林業改良普及協会及び本県関係者一二名が出席した。

開会后、当協会の渡辺卓治専務理事が主催者あいさつ、県林業振興課の大高明彦主幹兼副課長が来賓のあいさつを述べた。

このあと、(社)全国林業改良普及協会の渡辺政一専務理事より、「森林・

林業再生プランと林業普及指導事業について」の話を伺った。

また、全国林業改良普及協会に対する要望事項などについて話し合われた。

ついで、各道県及び協会における林業改良普及事業の取組み状況や事例、さらに、協会の現状・課題とその取組み状況がそれぞれ報告され、質疑などが行われた。

なお、次期開催は宮城県で行われることとなった。



今年桜の撮影事情

高温による熱中症騒ぎが収まらぬまま八月が終った。九月以降の気候回復に期待を寄せていたが、気象庁の長期予報によると九・一〇月も高温との事で国民の健康が心配である。久しぶりに写真の整理をしていたら、雪の積もった桜を見つけ、撮影の日に桜の脇で畑作業中の人から「桜に雪が積もる様では冷害」と考えて田植えを諦めたという話や、別の田植え準備の人が「冷害の年なら尚のこと自家消費米を確保する」という話を思い出した。両者とも還暦を過ぎた農業経営者で、稲作への考え方の一端に触れた思いがした。

ところで、桜が散り始めた頃から徐々に回復した天気等から農水省が発表した八月時点での水稲の出来は一〇三割となり、自家消費米を確保すると語った農家に軍配が上った。

今年の気温は異常気味で推移し、消防庁の発表によると五月中旬から八月一五日までに熱中症で病院へ搬送された人は三万二千余人、死者は一三一人に達した。その後も熱中症患者の病院への搬送が続く、八月末には四万人を突破する最悪の状況となっている。

話は変わるが、今春の桜の開花状況だが、冬期に低温が続く、四月に温度が上昇し始めてからも蕾の状態が続く、急に開花してはパツと散ってしまう桜が多く見られ驚いた。通常、桜は開花、三分、五分、八分咲き、満開などを経ながら約一週間は美しい花が見られるので撮影計画を立てられたが、今年は開花した翌日に満開、そして次の日に散るものもあって撮影計画が立たず、同じ道を何度も往復する事があった。写真を見ても雪の積ったもの以外に納得できる作品は少なく、当たりどころの無い悔しさが積っている。

今年の桜を総括すると開花準備が整ったのに気温が上昇せず、開花までに精力？を使い果たしてしまい、花期を長持ち出来なかったのではと素人判断をしたが如何でしょうか？桜愛好者を悩ませ、見物客に一瞬の艶姿を見せて散ってしまう桜。昔から地域の農業の指標として役立てられ、地域民から愛着の強い桜の異変は悲しい出来事である。桜が日本列島を覆い尽くし、四季を体感できることは日本人の誇りである。佐藤微風

表紙の横顔



なめこ育成

第6回ふくしま森林・林業写真コンクールで入選となった金子紀美子さん(本宮市)の作品。

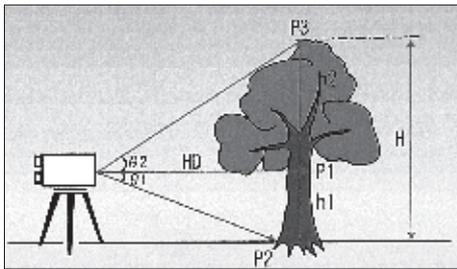
編集

発行人

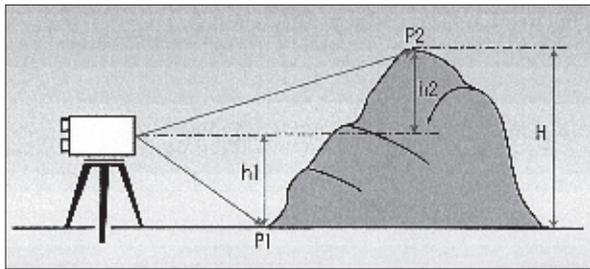
福島県内四森林管理署
 福島県林業協会
 福島県森林組合連合会
 福島県木材協同組合連合会
 福島県緑化推進委員会
 福島県農林種苗農業協同組合
 福島県林業公社
 森林総合研究所福島水源林整備事務所
 福島県林業協会
 (福島市中町五番一八号県林業会館内)
 渡辺卓
 陽光社印刷株式会社
 (定価 六三円)

高さ測定

1. 樹木の様に比較的まっすぐな場合



2. 堆積物等の山なり形状の場合



【LDM-20 仕様】

測距範囲	反射板 無30m 有300m
測距精度	± 5mm
傾斜センサー分析能	0.1
測定寸法	高さ・水平距離・斜距離
重量	W64・H64・D180
付属品	650g
	ソフトケース・反射板・取説 RS232Cケーブル・EXCEL取込ソフト



LDM-20

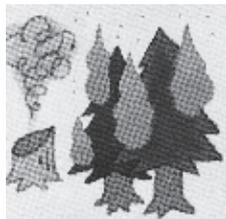
レーザーハイトセンサー「ハイト mini」

株式会社 福島測機

福島市渡利山ノ下前37-2 TEL024-523-1706 FAX024-523-1704

備えのパートナー 森林国営保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



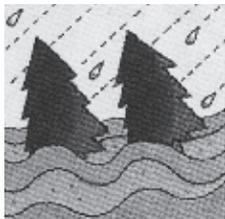
1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



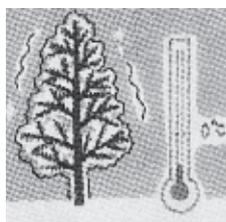
4 雪害

大量積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《ご相談・お申し込みは》

◆森林組合

◆森林組合連合会

福島県農林水産部森林整備課

☎ 024-521-7430

イワフジのプロセッサ

GP-35V プロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を迫及したプロセッサ



Simple Processor
MODEL : GP-35V



- 高耐久性を迫及したフレームとトンク
- 大容量ソーモータの採用による優れた切断力
- カッタ押し付けはシンプルなスプリング式
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラブ作業
- 高速コンピュータ GP-7 による精度の高い安定した測尺
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク

ランニングコストに優れたシンプルプロセッサ

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・グラブブルシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・ラジキャリーシリーズ



イワフジ工業株式会社

北関東支店 〒969-1149 福島県本宮市本宮万世11-7
TEL 0243-34-5440 FAX 0243-34-5442

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!
詳しくは当社ホームページをご覧ください www.iwafuji.co.jp

Yashima
豊かな緑を次代へ

自然との調和

私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

野生獣類から大切な 植樹木を守る

ツリーセーブ
ヤシマレント

盗みされ防止

ハチノックL (網隠し)
ハチノックS (携帯用)

大切な日本の松を守る ヤシマの林業薬剤

ヤシマスマイバイン乳剤
ヤシマスマイバインMC
グリーンガードエイト
パークサイドF
ヤシマNCS
モリエートSC
マツグリーン液剤2

くん蒸用生分解性シート

ちゅらシート (茶・白)
NCSシート (透明)
与作シート (茶・白)
(折りたたみ式
専用キャリアバック使用)



ヤシマ産業株式会社

本社 〒104-0045 東京都中央区築地1丁目9-6 アロア築地ビル2F
東北営業所 〒981-3133 仙台市泉区泉中央3-10-3-202

TEL.03-5565-3161(代) FAX.03-5565-3164
TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

排気量 **18.3cm³**

世界最小・最軽量、2.2kgの手のひらサイズ



G2000T EZ-START
20cm(8インチ)・SP ¥66,675(税込)
20cm(8インチ)・CV ¥72,765(税込)

排気量 **40.1cm³**

さまざまな用途に対応、本格プロ仕様シリーズ



G4211EZ EZ-START
40cm(16インチ)・SP ¥135,660(税込)
45cm(18インチ)・SP ¥137,865(税込)
40cm(16インチ)・H ¥135,660(税込)
45cm(18インチ)・H ¥137,865(税込)

使いやすさを
追求したハンドルと
思いのアクセルワークが
可能なトリガーレバー。



BC2711DW1-EZ
・防振ハンドルブラケット
・トリガーレバータイプ
チップソー ¥79,380(税込)
笹刈刃 ¥78,330(税込)

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店
(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1